



# 科学博物館ニュース速報

No.9 September 1, 2013

第9号 2013年10月1日

## この一年を振り返って

～お陰様でリニューアルオープン一周年～

今からちょうど一年前の平成24年10月2日に、科学博物館のリニューアル記念式典を開催し、200名近くの学外及び学内関係者を迎えて盛大に、新生科学博物館の船出を祝っていただきました。多くの方の期待の大きさに接し、身の引き締まる思いであったのを昨日のように思い出します。そして、翌日からは、一般来館者の受け入れがスタートし、宇宙服展示も功を奏してまずは順調な船出であったように思います。

あれから1年、簡単に博物館の活動状況を振り返り、2年目の方向性について考えてみようと思います。

まず、リニューアル前から我々に与えられた大きなミッションの一つは、年間入館者数35,000人の達成でした。入館者状況はどうだったのでしょうか。それを表したのが下のグラフです。1年間で19,191名となり、残念ながら目標は達成できませんでしたが、改修前の年間入館者数は12,000～13,000名で推移していましたから、50%増と考えられ、改修の効果が表れていると考えます。

このグラフからいくつかのことが分かります。2000人を越えた月は、11月、2月の2回でしたが、11月は学園祭、2月は友の会の作品展があったため多くの来館者に来ていただきました。これに次いで多かったのが、6、7月です。6月は工学部1年次に対して授業の中で博物館見学を実施したことが大きかったようです。7月は、キャンパスツアー実施によるものです。逆に少なかった月は、1、8、9月です。これらに共通しているのは、学

生の休暇期間であったり、大学試験や夏季休暇による開館日数が少なかったことが影響しています。

さて、この一年でどのような活動を行ってきたか、振り返って見ましょう。

### ①展示関係

・教育研究展示室の充実を図り、両学部 of 全学科で統一的な展示内容にしました。

・企画展：全学公募型を前期、工学部提案を後期とした企画展示を行うこととし、「農工大発ベンチャー企業展」「未来を照らす光の科学」の2回の企画展を行い、教員の研究力を発信しました。

・ミニ企画展：博物館で企画するミニ企画展としてコンピュータコレクション展を開いています。

・特別展：外部からの提案に基づく企画展として、サークル作品展、ウズベキスタン展を開催しました。

・シャルドンネギャラリー：学生サークルの写真部および旅と鉄道サークルによる写真展を開催しました。

②オリジナルグッズとしてポストカードとファイルを開発し、自動販売機による有料販売を始めました。

③博物館支援団体として学生が運営するmussetを組織化し、おもに館内ガイドや各種の企画立案をしています。

④資料関係では、収蔵庫にある1万を超えると言われる収蔵品のデータベース作りに着手しています。

⑤広報関係では、ホームページの充実、Facebook、Twitterを開発してタイムリーな情報発信に努めるとともに、2ヶ月に一回ニュース速報を発行して博物館にまつわる動きを広報しています。

⑥教育関係では、学芸員課程の運用はもとより工学部1年次の工学基礎実験の1コマに博物館見学を組み入れ、学部新入生全員が博物館を見学して本学の理解を深める取組を実施しました。

この他にも来賓への館内説明、団体見学対応、子供科学教室などこれまでの活動も引き続き行ってきました。

どのような店でも新装開店から1年目までは、目新しさも手伝ってお客さんを引き寄せることができるようですが、2年目に入って慢心して変わらない商売をしているととたんに客足が遠のくそうです。まさに2年目のジンクスが博物館にも当てはまると思います。どのようにしてリピーターを増やし、新規の来館者を開拓していくか、知恵の出どころだと思います。そのためには、教職員および学生諸君のサポートが欠かせません。情報発信基地としてどんどん博物館をご利用ください。また、自治体および博物館周辺の類似組織との連携を通して来館者の増加を図っていききたいと思います。

(科学博物館長 梅田倫弘)

## 子ども体験教室

5月18日の国際博物館の日に実施したワークショップが、予想以上に子ども達の参加が多かったことを受け、このたび夏休み最終週である8月27日(火)～30日(金)に、小・中学生を対象とした「子ども体験教室」を初めて開催しました。当館友の会サークルの協力を得て、4日間で織物体験、紐人形作り、型絵染でコースター作り、ミサンガ作り、糸紡ぎ体験、藁の亀作り、手編みのコースター作りの7つのプログラムを用意しました。

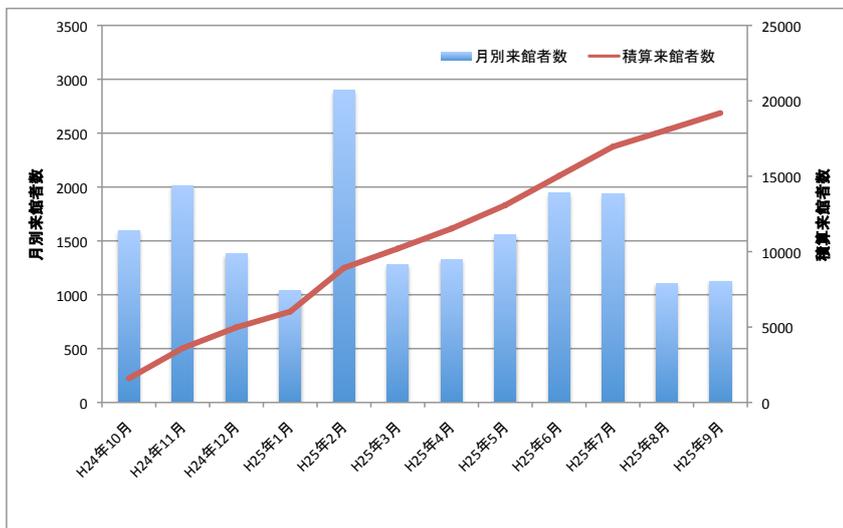
夏休み最後の時期を選んだ狙い通り、自由研究の終わっていない子ども達の駆け込み寺となる一方、中には4日間全ワークショップに参加してくれる子など、98名のご参加をいただき、非常に好評を得ました。

普段の「友の会サークル講習会」では、成人を対象としている友の会サークル会員にとっても、良い刺激になったようです。今後も、今回のような子ども達向けのイベントを企画していきたいと思えます。

(科学博物館特任助教 高木愛子)

## 子ども体験教室の感想

小学生って組みもで何を作りたいんだろう？博物館見学に来ていた子が、ミ



この1年間の月別来館者数と積算来館者数

ユーザムグッズのストラップを作っ  
て、残り紐を足首に結んでいたのを思い  
出し、ミサंगा作りを実施しましたが、  
予想を上回る申し込みがありました。

前後左右に大きく体を動かしながら  
糸を動かしてゆき、台の下から2色のハ  
ート柄のミサंगाが顔を出すと、「やっ  
た〜」という歓声が溢れました。付き添  
いのお母様から「私もやりたい」のお声  
をいただき、来年の講習会のご案内をさ  
せていただきました。

「ありがとうございます」ペコリと頭を  
下げ、振り返るとキャップの後ろに出来  
上がったばかりのミサंगाが結ばれてる  
のが印象的でした。

(ひも結びサークル 浅川真理)

8月27日(火)「高機で織物体験」に  
21名の参加がありました。用意されたカラ  
フルな糸や単色などのたて糸に、好み  
のよこ糸で敷物を製作しました。男の子  
の参加も多く、「夏休みの宿題ができ  
た」と喜ぶ親子がいたのも嬉しかったで  
す。

子ども達の色彩感覚、自由な発想に驚  
き、楽しそうに目を輝かせながら積極  
的に綺麗に織っていたのには感心しまし  
た。責任感あるmussetの学生ボラン  
ティアに助けられての実りの多い一日で  
した。(織物サークル 栗田治美)



高機に熱中する参加者

**大好評!**

### 講演会「琉球文化における染織」

9月14日(土)法政大学の小澤大二先生  
をお招きして、講演会「琉球文化にお  
ける染織」を開催しました。小澤先生  
は、外務省に入省後、アジア・南アメリ  
カ・アフリカを中心に数多くの在外公館  
で勤務されるとともに、経済協力・国際  
協力の分野で活躍されました。また、沖  
縄国際センターの設立・運営を所掌し初  
代所長をお務めになるなど、沖縄文化に  
精通されています。

今回の講演会では、琉球文化が継承  
された沖縄の多様な染織文化の他、歴史  
的にそれらに影響を与えた日本本土、中  
国、インド、タイ、インドネシア等の染  
織の文化・技術についてもご紹介いた  
だきました。また、小澤先生が世界各地  
で自らお集めになった実物資料を多数ご  
持参くださり、直接触らせていただけ  
るなど貴重な体験となりました。

博物館友の会会員を中心に63名のご  
参加をいただき、好評のうちに終了す

ことが出来ました。当館ではこれまで外  
部講師による講演会を行っておりませ  
んでしたが、今回を機に企画を増やして  
いけたらと考えています。

(科学博物館特任助教 高木愛子)



実物を使って講演される小澤先生

### 「青少年のための科学の祭典」 に出席してみよう

9月8日(日)の当日は雨の心配があ  
り、主催者が中止する場合もある、とい  
った不安定な天気の中、東京学芸大学で  
開催されました。朝方は天気がパツと  
しないにも関わらず、お子さん同士、子  
連れのお家族が大変多くいらっしゃいま  
した。

まず、参加者にうさぎの繭玉人形を  
作ってもらい、スタッフが懇切丁寧に指  
導した結果、参加者に連れ添ってきた子  
どもが非常に満足され、次に「ピカチュ  
ー」、「くまもん」等々を作りたいとい  
う希望が次から次に出て来ました。従っ  
て、入室者が多いけど退出者が少ない状  
態で、繭玉人形を作成する作業場が足り  
なくなり、隣の団体の了解の上、場所を  
提供してもらい、新たに作業机を3つ設  
置するほどの大入りになりました。

昼食時には入室者も減ることだろうと  
思っていたのですが、人数が減るどころ  
か増える一方で、スタッフが昼食を取る  
のもままならず、スタッフ14名、お弁当  
を代わる代わる廊下で立ち食いせざるを  
得ませんでした。

また、宣伝用の科学博物館パンフレ  
ット及び10/25から始まる「東京シルク  
展」のチラシ、それぞれ200部が足らな  
くなるほど配布しましたので、今後の博  
物館入館者の増加に貢献することができ  
るでしょう。

(科学博物館事務 北川和幸)



多くの参加者で賑わうまゆ人形作り

### この展示に注目 ⑦ エアジェット織機

現在、織物の生産現場において主流  
の織機は、従来の織機にあったよこ糸を  
供給するための「杼」(シャトル)を用  
いない織機です。「杼」の代わりに、よ  
こ糸を高速で噴出する空気の噴流に乗  
せて運ぶ織機で、「エアジェット織機」と  
言います。よこ糸は往復運動せず、通  
すたびに切り落とされるので、従来の有  
杼織機で織り上がった布にある耳とよば  
れる部分がありません。1分間に数百本  
のよこ糸を織り込むことができ、従来  
の有杼織機に対して、生産性は数倍とな  
りました。

ワイシャツ生地やデニム、シーツ、  
プリントクロスなど量産織物の多くが、  
世界中でエアジェット織機によって生  
産されています。

なお、当館では『ニッサンジェット  
ルーム・エアタイプLA20型』を稼働  
できる状態で展示しています。

(科学博物館助手 真貝哲夫)

エアジェット織機



### 《博物館活動カレンダー》

- ★佐藤勝昭先生絵画展  
10月1日～31日：シャルドンネギャラリー
- ★東京シルク展  
10月25～27日：1F西側展示室
- ★科学技術展  
11月7～10日：1F西側展示室、講堂
- ★子供科学教室  
11月9日「偏光フィルムを作ってサイエ  
ンスしよう！」
- ★繊維技術研究会講演会  
10月15日10時～12時：高井英雄「生糸検  
査の技術」  
11月19日10時～12時：高橋さきの「大  
事なことは、みんな繊維機械の向こう側で起  
こった」  
12月17日10時～12時：岩島 寛「健康寿  
命と介護用具」

### 「科学博物館ニュース速報」第9号

- ◆発行日 2013年10月1日
- ◆編集 科学博物館ニュース編集委員会  
梅田倫弘・高木愛子・真貝哲夫
- ◆発行 東京農工大学科学博物館